



知っていますか？「母子免疫ワクチン」

通常ワクチンは感染症から身を守るために当事者(子ども)に接種をしますが、**母子免疫ワクチン**は、生まれてくる赤ちゃんを感染症から守るため妊婦さんに接種をします。妊婦さんにワクチン接種をすることで母親の体内で作られた抗体が胎盤を通して胎児に移行することで、生まれた赤ちゃんが重症な感染症から守られるのです。

現在、母子免疫ワクチンとして注目されているのが、**RSVワクチン(2024年5月発売)**と**百日咳に対する3種混合ワクチン(DTaP)**です。いずれのワクチンについても厚労省の研究班により安全性が確認されています。

接種時期は、RSVワクチンが妊娠24週～36週、3種混合ワクチンが妊娠27週～36週となっています。接種を希望する方はかかりつけの産婦人科医や先生に相談してください。

母子免疫ワクチンの有効性

①**RSVワクチン**:RSV感染症は毎年12万人から14万人の2歳未満の子どもがかかり、1/4が入院しています。なかでも**新生児や6ヶ月以下の乳児が感染すると高率に肺炎や気管支炎を起こし重症化します**。ワクチン接種をすることで**生後6ヶ月までの発症予防効果は約50%、重症化予防効果は約80%ある**とされています。

②**百日咳ワクチン(DTaP)**:百日咳で問題となるのは乳児です。新生児や乳児が感染すると無呼吸や脳症をおこして命に関わることがあります。**日本では生後2ヶ月から百日咳ワクチンの接種が始まりますが、それまでの空白期間を補い乳児を感染から守ります**。海外のデータによると生後2ヶ月までの**発症予防効果は60%、重症化予防効果は70%ある**とされています。



8月の感染症情報

8月は全般的に感染症が少なく、そのなかで最も多かったのが、**夏風邪(エンテロウイルス感染症)**でした。

8月後半から、RSウイルス感染症、**新型コロナウイルス感染症**、**伝染性紅斑**が少しずつ増えてきています。



8月の利用状況

8月の利用延べ人数は83人、1日平均利用人数は4.4人でした。年齢別では、3歳児が18人で最も多く、次いで2歳児15人、4歳児14人でした。疾患別では急性上気道炎が53人で最も多く、ほとんどが高熱がでる夏風邪でした。次いで、急性気管支炎9人、ヘルパンギーナ5人の順でした。

9月になりましたが、今年はまだまだ厳しい猛暑が続くようです。夏休み明けで、生活リズムが戻らないなど、体調を崩しやすい時期ですので、くれぐれもご自愛ください。